



虚血性脳血管障害について

副病院長（脳神経外科） 城下博夫

「循環器・呼吸器病センター」というと、心臓や呼吸器病の治療をしている病院で、脳神経外科があるとは知らない患者さんもときにはあるようです。

しかし、血管系の疾患、なかでも脳卒中は循環器病のひとつであり、救急的な要素も強い重要な疾患であり、センターでは現在5名の脳神経外科医がその診療に携わっています。

脳卒中は、破裂脳動脈瘤によるくも膜下出血や基底核出血などの出血性疾患のほかに、最近の食生活の変化から、日本でも脳梗塞など虚血性脳血管障害が約70%と増加しています。

一般的に脳梗塞は、出血性疾患と比べて痛みがほとんどなく、発症頻度が多く、一見軽症の患者さんが多数を占めることから、心筋梗塞やくも膜下出血・脳内出血と比べて、どうしても軽く考えてしまう傾向が、特に一般の人たちにあるようです。朝起きて、手が動かなかつたが1日自宅で寝ていて、次の日に受診したなど今でもよく見られます。しかし、それでは脳神経細胞にとっては、すでに手遅れであり、NIHの報告では、積極的な血栓溶解療法は2時間以内、多くの報告でもゴールデンタイムはせめて6時間以内という、とても限られた時間内に開始することが重要です。これは、出血性疾患が症状の程度によって対応が変わり、症例によっては1～2日後でも取り返しが可能であるというように、時間的特性は全く異なっています。

最近のマイクロカテーテルの材質は、急速に改良されていて、脳の主幹動脈であれば、診断カテーテルとほとんど同じ感覚で操作できるようになっていて、我々は、いつでも最短時間で対応できるように単科当直でスタンバイしています。もし、そのような症例がありましたらいつでも御相談ください。どうかよろしく申し上げます。

総長 竹内成之

新年 明けまして おめでとう  
 ございます  
 先生方におかれましては よき年  
 をお迎えのことと お慶び申しあげ  
 ます  
 二〇〇〇年という区切りの年を迎  
 え 気持ちも新たにセンター運営に  
 臨んでいく所存でございます  
 今後とも 御指導 御鞭撻の程  
 お願い申し上げます

脳神経外科診療状況の推移

	平成6年度	平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度
外来患者総数	2,126	4,017	5,775	5,934	6,394
入院患者数	143	270	298	309	382
手術総数	41	39	99	112	124